

金福すいかより甘く

福井農林高がシプロ化成と連携

波長変換フィルム活用し栽培



白石社長（奥右）が見守る中、収穫したスイカの糖度を測定する生徒たち＝福井市の福井農林高校で

福井市の福井農林高校の生徒たちが、紫外線を光合成に最適な光に変える「波長変換フィルム」を活用し、市独自のブランド品種「金福すいか」の後継品種「新・金福」の栽培に取り組んでいる。十一日は、連携している企業の担当者らと、スイカの糖度などを計測して効果を確かめた。

化学品製造業のシプロ化成（坂井市）と連携し、生物生産科の三年生五人が取り組んでいる。生徒らは五月中旬に約百二十本の苗を植え付けた。受粉のタイミングで九十センチ四方の板状の「波長変換フィルム」を、栽培箇所の一部に六枚設置した。昨年取り入れた人工

知能（AI）技術で水やりや肥料の追加を自動で行う「ゼロアグリ」も併用して栽培した。

この日、シプロ化成の白石泰章社長が見守る中、収穫したスイカの糖度や重さ、大きさを調べた。フィルムを設置して育てたスイカと、設置せずに育てたスイカを比較。フィルムを設置せずに育てたスイカの糖度は平均で二二度だったが、設置して育てたスイカは一四・二度と高い数値が確認できた。これまでの測定でも一四・八度を計測しており、糖度が高くなっている。

滝波健翔さん（も）は「フィルムの効果に驚いた。栽培方法の工夫で付加価値を高めることで、金福スイカがもっと有名になってほしい」と話し、白石社長は「甘く育てられた経験が、より農業に興味を持つきっかけになれば」と話した。

（金崎千花）